



真っ白なキャンパスに描く壮大なる夢 青年らしく MAKE IMPACT

社団法人松本青年会議所 理事長 ^{みずのや たけし} 水野谷 武士さん

インタビュー：中村美由紀

「明るい豊かな社会の実現」を理想に掲げ、地域経済の発展に向けた運動展開と、次代を担う子供たちの心を育む活動を続ける社団法人松本青年会議所のメンバー達。50年の歴史を刻み、新年を迎えた今、新理事長によるリーダーシップのもと彼らがどんな風をこの地域（まち）に巻き起こしてくれるのでしょうか。51代理事長に就任したばかりの水野谷武士さんにお話を伺いました。

力強く掲げたスローガン

中村：水野谷さん、本日はよろしくお願ひします。早速ですが、2010年、今年の松本青年会議所（以下松本J C）が掲げたスローガン「MAKE IMPACT」は、力強さを感じる勢いのある言葉ですね。

水野谷：はい。「MAKE IMPACT」とは「波風をたてよう」「衝撃を与えよう」という意味…我々青年が、どんな時代においても青年らしく暴れよう！そんな思いが込められています。50年の節目を迎えた今だからこそ、足元を見つめ基本に戻る。伝統を重んじながら、新たな歴史に確かな一歩を築き、自分たちの活動に誇りを持って、夢を描き実現する為の知恵を絞っていこうと考え

ます。昨年は皆様の温かいお力添えを頂き、松本J C創立50周年の節目の年に、数々の有意義な事業に取り組みました。今年、100年にむけての新たな歴史の幕開けの年、まだ見ぬ未知なる可能性を求めて、本来の活動に意識を集中していきます。



みずのや・たけし

1971年生まれ。1999年松本青年会議所入会、地域主権政策委員会副委員長、未来のかたち特別会議議長、副理事長などを経て、2010年1月第51代理事長就任。2009年2月より株式会社水野谷代表取締役として会社を引っ張っている。

中村：頼もしい言葉ですね。具体的にはどんな活動をお考えですか？

水野谷：まずは継続です。2009年、「松本J Cエコロプラン」と題し、植樹事業を行いました。講師である宮脇昭先生の教え、「命を植える」という理念のもと、今年も“自然との共生”という観点で、責任世代として、次代を担う子どもたちに夢を託し、将来彼らが「大きな夢のなる木」に成長することを願ひ、大きな命を植えていきます。

両輪で臨む新たな一歩

中村：子どもたちに夢を託す…ですか。水野谷さんは、父親としても新たな一歩を歩み始めたばかりなのだ

そうですね。おめでとうございます。
水野谷：ありがとうございます。実は1月4日に男の子が生まれました。私は、入会した1999年以来、この松本J Cで様々な出会いに恵まれ、使命感を持ち、達成感を味わいながら活動を続けて来ました。2005年には副理事長も務めさせていただきましたが、途中2年間ほど、会社の業務に集中させて頂いた時期を経て、昨年2月に、祖父の代から続く(株)水野谷の代表取締役就任しました。そんな折、持ち上がった次期理事長の大役…「J Cも会社も、やればやっただけ成果はある。両輪を回せる自信があれば必ずやれる！」そう思っただけの決断でした。9月末、妻のお腹には息子が居て、父親としての決断でもありました。

松本のグランドデザインを描く

中村：なるほど。まさに新しい歴史のはじまりにぴったりの理事長ですね。その他にはどんな発信をしていますか？また、水野谷さんが考える地域の理想・夢をお聞かせ下さい。
水野谷：文化と歴史に育まれた城下町まつもとで、1982年に第一回全国城下町シンポジウムが開催され、まもなく30年を迎えます。我々松本J Cは、昨年の福知山での大会において、第30回目となる2011年の開催地に決定しました。諸先輩方の熱い意思を引き継ぎながら、地域一丸となってこのピックスステージに取り組もうと考えます。この一年間の活動が、来年の大会成功の可否を握ります。団結力を高めながら、企画立案を行い来年に繋げます。

そして、まもなく誕生する新松本市、合併によりこの地域の枠組みも新しくなります。我々は、個の輝きを結集し、「地域の財産」を大切にしながら、「地域主権社会」実現に向けて、魅力溢れる“この地域のグランドデザイン”を発信していきま

す。地域間競争が発生するこれからだからこそ、松本の強み、魅力を掘り起こし、「まつもとブランド」を創りだして、地域を潤したいのです。自分達で自分の地域の力をつける！生きていく源は自分達で創るのです。

中村：素晴らしいですね。

水野谷：そして“Cool Matsumoto!”です。観光分野においても然り、誰も助けてはくれません。私たちの空港が、かつてない激変の波に直面した昨年でしたが、今後はさらに、「信州まつもとと空港」の活性化に向けて議論を尽くし、存

在意義と有する価値とを、未来を見据えて提言しなくてはなりません。会員には、議論はとことん、^{けんけん}“喧嘩^{けんけん}”やろうじゃないか！と訴えています。これ実は…^{かんかん}“侃侃^{かんかん}”が正しいですよ（笑）。

時代の責任世代は私たち

中村：お気持ちは十分伝わります。ところで、そんな風にまちの未来像を熱く語る、松本J Cの会員は現在何名いらっしゃるのでしょうか？

水野谷：現在は84名の組織です。151名だった、1990年のピーク時以降は徐々に減少しているのが現状です。少なれば少ないなりの行動が出来はしますが、まもなく卒業を迎える自分達の年齢層が占める割合も多く、来期を見据えることが急務です。同世代の人々に、私たちのこの地域に対する「想い」を、伝えられなければ、地域一体となつての運動の輪は広がりません。組織力を高めるうえでも、会員一人ひとりが自覚と自信、誇りを持つことで会員拡大を目指します。

中村：水野谷理事長からは、地域人としての自覚と誇りが強く感じ取れますが、その情熱や行動力はどう



やって培われたのでしょうか？

水野谷：高校卒業後、アメリカに渡り大学時代を過ごしました。人よりも少し長い7年間ですが（笑）。異国で暮らして分かったことが沢山あります。「国際交流」を通じて、相手の生き方、バックグラウンドを尊重すること、日本人のアイデンティティを考える機会に恵まれました。

中村：なるほど留学経験がおありなのですね。今日は、スローガンのサブタイトル～足元を見つめ 天高くを望もう 新たな歴史の幕開けに 未知なる可能性を求めて～この言葉に託された熱い思いまでも、しっかりと何うことが出来ました。今後も松本J Cの活動に注目していきますね。ありがとうございました。今年のテーマカラーは、水野谷だけに“水色”…。松本J Cの新理事長は、澄み渡る冬の青空のように清々しい男気溢れる“青年”でした。

なかむら・みゆき

各種イベント・式典・ブライダルのMC。個別対応と地域に根ざした仕事を心がけ、信州まつもとの新たな発見を発信すべく日々活躍中。

